

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	市民健康課長 菊池 隆		
健福-36	実施事業	保健衛生運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	市民健康課
	まち・ひと・しごと		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針	市民の健康と安心づくりの推進	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民一人ひとりの保健衛生知識の啓発を図るため。
効果	市民の健康衛生の水準を向上させる。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康づくりの指針・行動計画となる健康づくり計画を推進し、市民の健康寿命の延伸を図った。 ・日本赤十字血液センターが街頭等で実施する献血事業に対して、献血者への謝礼を配布した。あわせてホームページや広報かまぐらの活用、市内事業所や町内会、ライオンズクラブ等との連携を通じて献血への参加を呼びかけた。 ・保健事業及び健康づくり事業等の中で、自殺に関する基本的な知識や命の大切さについて周知啓発を図った。 ・自殺対策基本法に基づき、自殺対策計画を策定し、総合的な自殺対策の展開を図った。 ・かながわ未病改善宣言に基づき、県や近隣市町と協力した未病改善の取り組みを行った。 ・骨髄・末梢血管細胞提供者(ドナー)の経済的な負担を軽減し、骨髄移植等の推進を図るため、ドナーとなった市民及びドナーが勤務する事業所を対象とした助成金については、申請がなく、助成金の交付は行わなかった。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	
人口等の	176,466人	81,150世帯	176,308人	81,763世帯	176,436人	82,444世帯	・各年3月31日 (住民基本台帳)
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	9,887	3,708	当初予算(千円)	9,305		
	国県支出金	3,538	392	国県支出金	708		
	地方債	0	0	地方債	0		
	その他	0	0	その他	0		
	一般財源	6,349	3,316	一般財源	8,597		
	人員配置数	1.3	1.3	人員配置数	1.5		
事業経費運営	人件費(千円)	10,051	10,246	人件費(千円)	11,638		
	総事業費(千円)	19,938	13,954	総事業費(千円)	20,943		
	市民1人当りの経費(円)	113	79	市民1人当りの経費(円)	119		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか 今後も市が実施すべき事業か	2. 廃止・休止による影響は小さいがある 9. 実施が義務付けられており(法定受託事務等)、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△. 負担未導入 △-1. 今は受益者負担を求めているが、今後、負担の導入を検討する必要がある
	協 働	市民等と協働して事業を展開しているか ○. 協働実施済 協働実施済の場合のパートナー いきるを支える実行委員会（鎌倉保健福祉事務所、逗子市、葉山町、鎌倉市社会福祉協議会、逗子市社会福祉協議会、葉山町社会福祉協議会、地域生活サポートセンターとらいむ）
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの内容 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他
	事業へ統合	
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 (健康づくり計画) 目標達成のためには継続した取り組みや啓発が必要なため、予算は現状維持とする。(地域自殺対策) 平成30年度に自殺対策計画を策定し、計画期間である5年間で、関連機関との連携により、予算規模を大幅に増加させることなく推進する方法を模索していく。(未病センター) 民間企業等の協力による設置の可能性を模索していく。

総評 (評価に 対する 考え方、 根拠等)	(健康づくり計画)市民の健康増進に大きく寄与する事業であるため、健康づくり計画を推進するために健康づくり計画推進委員会及び幹事会で計画の進行管理を行いながら、啓発イベントや事業等を継続して行っていく必要がある。 (地域自殺対策)近隣市町や関係機関と連携し、啓発活動に努めている。平成30年度に、自殺対策計画を策定した。平成31年度は計画の周知や、関係機関と連携した対策の推進を行っていく。併せて市民一人ひとりのこころの健康づくりに寄与する事業を展開していく。 (未病センター)ICT活用健康づくり事業と連携し、健康づくりの普及啓発を推進する拠点となるが、民間との協力等により、予算を拡大することなくバリエーションに富む展開方法が期待できる。
--	--

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題 (前年度未解決の事項を含む)	(健康づくり計画)未病センターやICT活用事業と連携した相互事業の推進(地域自殺対策)鎌倉市自殺対策計画の策定を予定しており、市民や関係機関と連携し、自殺対策が広く認識されるような取り組みを検討していく必要がある。(未病センター)広い対象に利用してもらうためには、開設箇所や開設時間の拡充が必要である。	
課題解決のために行った平成30年度(2019年度)の取組	(健康づくり計画)健康づくり計画前期重点目標達成のため、市内のイベント等に参加し、計画の概要版やウォーキングマップの配布等を行った。また、イベント参加者には、ICT活用事業のポイント付与する等し、連携を図った。(地域自殺対策)鎌倉市自殺対策計画を策定した。また、ゲートキーパー養成講座のほか、若年層を対象とした講演会を開催した。(未病センター)県の未病センター支援プログラムを活用した。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	(健康づくり計画)未病センターやICT活用事業と連携した相互事業の推進 (地域自殺対策)鎌倉市自殺対策計画に基づき、市民や関係機関と連携し、自殺対策が広く認識されるような取り組みを推進していく必要がある。(未病センター)広い対象に利用してもらうために、出張型未病センターの継続や民間機関への未病センター開設の働きかけなどが課題である。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	市町が健康増進を目的として刊行しているウォーキングマップの有無								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	逗子市	横須賀市	平塚市	葉山町		
他市実績	○	○	○	○	○	○	○		
比較事項	自殺死亡率(人口10万対)【平成29年 神奈川県衛生統計年報】 上段:平成29年度/下段:平成28年度(比較)								
団体名	鎌倉市	逗子市	葉山町	小田原市	茅ヶ崎市	平塚市	大和市		
他市実績	16.3	8.7	3.1	15.1	10.8	19.7	14.5		
	10.4	13.9	3.1	17.6	10.0	15.1	18.0		
比較事項	ゲートキーパーの養成数(平成30年度) 上段:開催回数/下段:養成数								
団体名	鎌倉市	逗子市	葉山町	小田原市	茅ヶ崎市	平塚市	大和市		
他市実績	3	5	5	2	2	9	9		
	85	169	90	68	46	559	296		

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	ウォーキングマップは、多くの市が作成に取り組んでおり、本市でも積極的に進めていきたい事業である。単に自殺死亡率の低下が自殺対策の向上につながるものではないが、今後、鎌倉市自殺対策計画に基づく、自殺予防対策を推進していく中で、効果を見るための指標のひとつとして自殺死亡率の推移は確認していく。また自殺対策計画では、ゲートキーパーの養成を指標としていることから他市の状況と併せて確認していく。
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	健康づくり計画PR事業(鎌人いちば)のブース来場者数						単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
「鎌倉市健康づくり計画」を直接紹介する事業であるため。(PRについては、その他、保健事業とも連携して推進中)	目標値	-	-	300	450	500	550	H30はビーチフェスタ及び収穫まつりにて周知を実施。			
	実績値	-	-	416	雨天中止	670					
	達成率	-	-	138.7%	-	134.0%					
指標の内容	ゲートキーパー養成講座等参加者数						単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
精神的な健康を保つために自身のセルフケア、身近な人へのサポート等の知識の普及啓発が必要なため。	目標値	150	200	100	120	120	150	実績から、H30年度目標値を変更			
	実績値	462	126	40	72	85					
	達成率	308.0%	63.0%	40.0%	60.0%	70.8%					
指標の内容	自殺死亡率の減小(人口10万対)【神奈川県衛生統計年報】						単位	%	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
自殺死亡率の減少を目指すため。	目標値	18.0	17.0	16.0	15.0	15.8	15.3	平成30年度の率は公表前であるため、未計上			
	実績値	17.3	16.8	10.4	16.3						
	達成率	96.1%	98.8%	65.0%	108.7%	0.0%	0.0%				
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	(健康づくり計画)平成30年度からは他にもPRを行えるイベントの開拓に努めているため、指標は順次見直していく予定。将来的にはPR事業の場を活用したアンケート調査などを検討したい。(地域自殺対策)地域での心の健康づくりを推進するため、地域の団体や事業者等に働きかけ、ゲートキーパー養成講座受講者数を増やしていく。また、計画期間中に全職員の受講を目指す。(自殺死亡率)鎌倉市自殺対策計画を策定し、自殺予防対策を推進していく中で、効果を見るための指標のひとつとして自殺死亡率の推移を確認していく。										